

陳 情 書 等

件 名

公園内の駐車台数増加と宇治川堤防遊歩道（宇治橋
北側から戦い川区間）の整備について

陳情書

公園内の駐車台数増加と宇治川堤防遊歩道(宇治橋北側から戦い川区間)の整備について

太閤堤の発見からようやく待ちに待った歴史公園の本格工事が始まります。NHK ドラマ「鶴飼に恋した夏」での御陵の木々を背景に主人公が茶畑と宇治川にはさまれた堤防道を全力疾走する場面はまさに宇治の原風景をイメージ化した演出でした。東宇治方面から中宇治の神社仏閣などへ繋がるターミナル駅が、この公園整備後は三室戸駅から宇治駅まで宇治の風情を醸し出す宇治川の景観と茶畑が望める緑あふれた周辺と相まった観光都市の玄関口となることでしょう。

そもそも、この新たな観光拠点は京阪宇治駅の西側と宇治川にはさまれた土地という立地条件を生かし、「ゆっくりのんびりエコ(鉄道利用)滞在型」、歩いて回れる周遊観光を目指したものであるというのが地元の捉え方でした。その為、2010年10月「太閤堤を守る会」は太閤堤跡歴史公園整備における「駐車場計画」は「歩いて回れる周遊観光」とは相反するのではないかと疑問を呈した上で地元住民として提言を提出しました。

御陵、茶畑や公園の緑の保全を考えれば、なるだけ駐車台数を縮小すべきということから、代替案を出したのです。それは、京滋バイパス側道沿いでもあり、景観に障害もない「アルプラザの西側駐車場を季節期間交渉」できないだろうかというものでした。

駐車後は戦い川沿いの小道から堤防遊歩道を通れば、徒歩10分程で太閤堤跡まで行けます。その堤防遊歩道もイロハモミジ、桜、山吹、紫陽花などの植樹での整備で丸山車田地区住民の協力も得られるのではないだろうかと考えました。そういった住民の目の行き届いた小道は犯罪逃走に使われにくい、犯罪防止効果もあることが実証されています。安全安心のまちづくりにもつながり、木々が根付き、花々に彩られた遊歩道、そして、さらに公園近くの地点は格好のバードウォッチングの場所でもある事をご承知の通りです。できれば、そこにはベンチ設置も望まれるものです。周辺の美しさづくりに携わることは直接公園整備に伴う周辺のまちづくりとして道路事情の整備などの恩恵を受ける地区住民にとっては、全市民への一つの感謝や還元の方法として、真心込めたそういった市と市民の協働作業にも参加しやすいのではないかと思います。それが当時の二つ目の大きな疑問点への解決案として掲げたものでした。これは宇治茶と歴史・文化の香るまちづくり構想素案のパブリックコメント(市民意見)・関係者ヒアリング(公聴会)・タウンミーティング(市民会議)に参加しつつも、それ以外に地元住民が意見を発表する機会がなく、待ちの姿勢より「守る会としても文化都市に住む自覚をもち、地区を熟知している住民として私たちの宇治を私たちの手でという熱い思いを持って行政に協力してゆきたい」という提言でした。その根本に「私たちは宇治の観光資源であるこの地区の整備を望むばかりに全市民に負担をかける要望をするつもりではない」という事を明確にしたものだったのです。

議会では当初から公園内の駐車場の必要性が叫ばれていました。山本市長誕生以降は公民館機能移転を反対する理由の一つに公民館行事などに際しての市民利用者の駐車場の為に観光客の駐車台数不足を案ずるといった論理展開(市環k 2016、3、8)も見られました。しかし、観光都市としての課題であった、観光大型バスが利用できる駅周辺の駐車場の検討が機能移転とセットでその宇治公民館跡地と隣接の商工会議所跡地で当時の公民館駐車場のまともった土地活用として検討されることも市長公約に掲げられていました。

観光特化での整備で工事再開となり、観光都市としての駐車場課題も理解しつつも、事業者の提案では従来よりも多い駐車台数だということを会議録で確認したことで住民としては不安が再び出てきました。

堤防遊歩道の整備については国交省との関わりもあるとは思いますが、殺風景さと共に、雑草の茂ったうっそうとした環境を克服する手立てが安全安心のまちづくりに繋がるということを考えて整備をされることを期待するところです。更に、この観光拠点の開園においては、遊歩道は宇治川と共により美しい「宇治らしさ」を演出するものでなければなりません。そこで、再度この2010年提言の一部変更を加え、今の実態に沿うものとして地元の住民として3点の下記の陳情をしたいと考えます。

- ① かつて、関電の余水路に等間隔に植えられていた桜やモミジの美しさを知る者として、整備に合わせて、再びそういった植樹ができないものかと思っています。
同時に、現在、関電余水路堤防と西丸山町内会側の太閤橋の間に住民により手入れされた紫陽花の一角がありますが、それを戦い川から宇治駅までの遊歩道沿いにも広げられないものかと思っています。
- ② 今の国交省や関西電力の雑草処理は年一回なされていますが、地元としてはやぶ蚊などに悩まされているのが実態です。また、昨今、糞害注意を無視する無責任飼い主もいることから、私たちも市と市民の協働作業の意義を住民に徹底するように町内会にも呼びかけていきます。その為にも、どうか具体的な整備について国交省、関電、住民の話合いおよび説明会を開催して下さることを切にお願いします。
- ③ 公園内駐車場についてですが、大型観光バスはJR高架鉄橋の為に侵入できませんが、普通車台数を増やした提案が事業者から出されています。他府県からの観光客には宇治駅側からの進入経路を徹底することは当初からも言われております。近郊、あるいは宇治の車両進入は三室戸経路が周知されていることから、机上の空論になりかねないことを懸念しています。議会からも府道に沿う平和堂フレンドマートの駐車場云々の話もありましたが、実際以前の提案に記した、平和堂アルプラザ宇治東の京滋バイパス側道

に隣接した西側駐車場から遊歩道を通して公園に来る経路を考慮に入れていただけないでしょうか。夜から朝8時前まで、10台ほどのダンプカーが毎日駐車しており、電気自動車の充電もでき普段は従業員以外、使用されていない無料の駐車場です。地区の指定避難所の協力をいただいている平和堂さんに協力を取り付けることも可能性がゼロではないと思います。

再度、念を押したいのが、地域エゴとならぬよう「町の美しさづくり」とは地区の「つながりづくり」を基本と思う宇治を愛する住民有志です。

以上

令和元年(2019)年8月吉日

宇治市市議会議長

真田 敦史議員宛て

陳情者

「太閤堤を守る会」会長 前川 幸雄 他(文責 前川 まみこ)